

富山県農村婦人の貧血（第2報）

第1報の追跡調査

富山県農村医学研究会

石田 礼二 越山 健二 北川 鉄人
 水木 正雄 一柳 兵蔵 末永 良治
 久保田憲太郎（順不同）

緒 言

昭和47年6月、富山県下の農村婦人の貧血の実態調査が行われ、その結果はすでに本誌第4巻に発表した。被検者のうち明らかに貧血と思われる人には直ちに通知し、再検査あるいは治療をうけるよう指導したが、昭和48年3月、貧血者の追跡を目的として再調査を行なったのでここに報告する。

調 査 方 法

昭和47年6月の調査（第1次調査）による貧血者にあらためて通知し、病院において検査及びアンケート調査を行なった（以下第2次調査という）。検査項目には1次では行わなかった血清鉄の定量を加えた。

1. 対象者

1次調査で貧血とした基準は下記の通りである。

1) 血色素量 11g/dl未満の人

2) 血色素量 11g/dl以上、12g/dl未満の人で、赤血球数 360万未満、或いはヘマトクリット35%未満の人

尚第1次調査で貧血者として通知した人数は
 調査地区 1,006人のうち 247人

対照地区 85人のうち 8人

であった。

2. 検査項目

a) 血液検査（静脈血による）

- ①赤血球数：自動血球計数器
- ②ヘマトクリット：微量超遠心器
- ③血色素量：シアンメトヘモグロビン法
- ④血清鉄：原子吸光法

表1 アンケートの内容

① 次の食品で食べる度合のあてはまるところに○印をつけてください。(又、2～4の項目ではあてはまるものに○印をつけて下さい。)

品 名	(ア) 毎 日 食べる	(イ) 時々 食べる(2～4日に1度)	(ウ) ほとんど 食べない
1. 魚（いか等を含む）類			
2. 肉(ハム、ソーセージ等)類			
3. 卵 類			
4. 大 豆 製 品 (トーフ・味そ汁・納豆等)			
5. 緑 黄 野 菜 (カボチャ・ニンジン・ ピーマン・ホウレン草等)			
6. 果 物			
7. 淡 色 野 菜 (大根・カブ・キウリ・ キャベツ等)			
8. 牛 乳			
9. 海 藻 類			
10. 油・バター(料理に使って)			

② 再検査を受けましたか。

ハイ イイエ

③ 治療を "

ハイ イイエ 治療中

④ 現在具合のわるいところがありますか。

ハイ イイエ

b) アンケート調査

簡単な栄養調査、及び貧血に対する意識調査を目的として、表1のようなアンケート用紙を配布した。

調査結果

1. 調査人員

1次調査で貧血として通知した人数、2次調査を受けた人数は表2の通りであった。調査地区では1次の人数1,006人のうち貧血者は247人、24.6%であった。そのうち2次受診者は155人、62.8%であった。

尚対照地区では人数も少なく、2次受診者も2人にすぎなかったので今回の報告からは除いて検討する。

2. 各検査項目の平均値(表3)

各項目の平均値と標準偏差を表3に示した。

1次調査の平均値は2次受診者の1次調査における検査数値の平均値である。各項目とも2次において有無の差をもって1次より改善されている。しかし血色素量の平均がまだ12g/dl未満であったことは注目されねばならない。血清鉄は正常であった。

表2 調査人数

地区	1次	貧血	2次	地区	1次	貧血	2次
立山 1	50	6	4	興羽	50	12	8
立山 2	49	5	3	入善	50	19	12
神保宮川	50	11	6	大山	50	12	9
音川	56	23	17	射水	50	8	3
魚津	50	15	10	福野井波	50	12	9
氷見 1	45	6	4	砺波	50	9	8
氷見 2	52	7	6	高岡 1	50	10	5
上市	50	10	7	高岡 2	50	10	4
小矢部	50	12	5	高岡 3	53	12	3
滑川	52	19	13	計	1,006	247	155
福光	49	29	19	対照	85	8	2

表3 1次と2次の平均値の比較

	人数	1次	2次
赤血球 × 10 ⁴	155	371.3±37.6	405.0±35.0*
ヘマトクリット %	153	32.8±3.35	35.7±3.43*
血色素 g/dl	155	9.9±1.27	11.0±1.62*
血清鉄 γ/dl	152		78.7±28.0

※：有意差より(危険率5%)

血清鉄を正常群、貧血群にわけると、正常群82人の平均は98.8g/dl、貧血群70人で55.2g/dlと貧血群に明らかに低値を示している。

4. アンケート調査

a) 食品摂取の調査(表4)

表の正常群とは2次で正常であった人、貧血群とは2次で貧血とみなされた人である。各食品項目で正常群、貧血群を比較してみると大きな差は認められなかった。バター項目では全く食べない人が貧血群に多いのが目立つ程度である。また牛乳を全くのまない人が正常群、貧血群ともに半数近くにみられたのは注目に値する。

3. 貧血者

2次受診者のうち1次におけると同様の基準で貧血者をとりあげると、72人に該当した。これは2次受診者155人の45.6%を占めることになる。尚1次の検査値より2次の数値が悪い人は20人にみられた。この数値は2次受診者155人の12.9%、2次の貧血者72人の27.8%であった。

表4 アンケート (1)

食 品	正 常				貧 血			
	廿	+	-	計	廿	+	-	計
1. 魚 類	40/49.4	41/50.6	0/0	8 1	33/46.5	36/50.7	2/ 2.7	7 1
2. 肉 類	7/ 8.5	74/90.2	1/ 1.3	8 2	7/ 9.9	61/84.7	4/ 5.4	7 2
3. 卵 類	20/24.1	61/73.5	2/ 2.4	8 3	15/21.1	54/76.1	2/ 2.8	7 1
4. 大豆製品	65/79.2	17/20.8	0/0	8 2	62/86.1	9/12.5	1/ 1.4	7 2
5. 緑黄野菜	37/44.6	44/53.0	2/ 2.4	8 3	29/40.8	40/56.3	2/ 2.9	7 1
6. 果 物	45/54.2	35/42.2	3/ 3.6	8 3	47/66.2	23/52.4	1/ 1.4	7 1
7. 淡色野菜	54/65.9	28/34.1	0/0	8 2	52/74.3	18/25.7	0/0	7 0
8. 牛 乳	21/28.0	17/22.7	37/49.3	7 5	20/28.6	19/27.1	31/44.3	7 0
9. 海 藻 類	10/12.3	69/85.2	2/ 2.5	8 1	13/18.6	52/74.3	5/ 7.1	7 0
10. 油・バター	32/40.0	46/47.5	2/ 2.5	8 0	36/50.7	31/43.7	4/ 5.6	7 1

註： (廿)：毎日食べる (+)時々たべる(2～4日に1度) (-)ほとんどたべない。
例数/% 記入もれは除外した。

表5 アンケート (2)

	正 常 群			貧 血 群		
	し た	し ない	計	し た	し ない	計
再検査	43 (55.1)	35 (44.9)	78	21 (30.0)	49 (70.2)	70
治 療	29 (38.2)	47 (61.8)	76	11 (19.0)	47 (81.0)	58

註：1 ()は%

2 治療には現在治療中も含めた。

b) 貧血に対する意識調査(表5)

貧血として再検査、治療などの指導をうけたにもかかわらず、検査治療をしていない人はやはり貧血群に多くみられた。

総 括

富山県農村医学研究会が農村婦人の貧血調査を始めたのは、県下全体の農村婦人の貧血の実態が把握されていなかったこと、またその原因が通常いわれている農村の食生活に由来するのか、或は労働条件が関連しているのかなどを追究するためである。しかし調査により見出された貧血者の予後調査も参考になると考えられる。この第2次調査を翌年3月に行なった理由は、1次から6ヶ月以上経過し

ていること、農閑期であり検査に出やすいのではなかろうかという考えからである。

1次調査で貧血者は247人であったが、実際に2次調査をうけたのは155人、62.8%であった。指定した病院に指定した期間にきてもらっての検査のため受診者が減少したことは一応考えられるが、農閑期でもあり、貧血に対する知識、或はこの調査に対する認識がもう少しあれば、もっと受診者は上昇したものである。来検者の理由は調査しなかったが、調査する側のPR不足もあったのではなかろうか。しかしアンケート調査でもみられたように、再検した人、治療した人が貧血者群に少ないことを考えると、検査成績は貧血であっても自覚症に乏しい人が多いため放置されていたことも考えられる。

一方貧血の程度は数字の上では1次より2次が明らかに改善していた。しかしなお72名46.5%と半数近くが貧血であったことはアンケート調査の結果とあわせて考えると、貧血に対する認識不足があることが推察される。又、今回血清鉄を測定したが、平均値では概ね正常範囲であった。しかし正常群と貧血群

にわけると、正常群の98.8 g/dlに比し、貧血群は55.2 g/dlと明らかに低値であり、農村婦人の貧血は鉄欠乏性貧血であることが考えられた。

農村婦人貧血の原因は従来より過重労働とともに栄養問題が重要視されている。今回のわれわれのアンケートによる食生活の調査はその内容が単純であったためか、これといった特徴はつかめなかった。鉄欠乏性貧血であればその栄養摂取の十分な調査が必要であり、次の機会には本格的な栄養調査が必要であろう。

結 語

われわれは昭和48年3月に、昭和47年6月

の農村婦人貧血調査のうち、貧血者とみなされた人の追跡調査を行い、次の結果をえた。

1. 赤血球、ヘマトクリット、血色素とも、平均値では改善していた。しかし血色素はまだ12 g/dl以下であった。
2. 受診者 155人のうち72人、46.5%がまだ貧血であった。
3. アンケート調査には、貧血に対する認識の不足が推察された。又栄養のアンケート調査では特に特徴はつかめなかった。

文 献

1. 石田礼二ほか：富山県農村婦人の貧血(第1報)
富山県農村医学研究会誌 4：21. 1973